



富田町病院 院内探訪 おじゃまします！



Vol.
01

「広報ナガヤマのおきこぼ日誌」は前号で終了し、今号から庸愛会編集号では富田町病院の「院内探訪」と銘打って、外からはなかなか見えない富田町病院の“内側”をご紹介します。初回は、栄養課。取材に行ったところ、スタッフの思いを書いてくれました。

当院の給食厨房は、全員が病院職員として働く直営給食です。入院中でも季節の移ろいや行事を感じていただけるよう、当院では年間15回もの行事食を提供しています。これは月に1～2回のペースで、通常の献立に加えて特別なメニューをお出しするものです。
〔右下写真は七夕の行事食〕

当院の給食は、ただ美味しいだけでなく、患者さん一人ひとりの病状や摂食能力に合わせたきめ細やかな個別対応を徹底しています。これを可能にしているのが、臨床部門の管理栄養士と厨房職員との密な連携です。管理栄養士が病棟で患者さんの状況を把握し、その情報に基づいて厨房職員が献立を調整・調理することで、患者さんにとって最適な食事が提供されています。

当院の給食厨房は、患者さんの「おいしい」という笑顔のために、これからも安心・安全で、心温まる食事を提供し続けてまいります。地域の皆様にも、私たちの給食への情熱とこだわりを感じていただければ幸いです。

【富田町病院栄養課一同】



富田町 病院の 取り組み



緩和ケア勉強会

5月23日、6月27日と、院内スタッフの勉強会を行いました。講師は当院非常勤医師で大阪医科大学病院の満屋 奨（みつや しょう）先生。



地域のみなさんの健康と在宅生活を支えるために、医師・看護師はもとより、コメディカル、介護職や事務職まで、これからも研鑽を深めていきます。

糖尿病教室

6月20日、院内糖尿病チームによる「糖尿病教室」を行いました。コロナ禍で中断しましたが、年2回続けています。今回は熱中症予防について。



澤井医師をはじめ、看護師、管理栄養士からのお話、〇×クイズなどのほか、簡単な体操も行いました。

富田地域包括 支援センター からの お知らせ



／いきいき暮らすヒントが学べる！／ 健康アップ教室

- 日時** 毎月 第3月曜日
(祝日の場合は第2月曜日)
午前 10:00～11:30 **要予約**
- 場所** 富田公民館 2階／集会室3
(10月のみ大集会室)
- 持ち物** 筆記用具、飲み物、
健康パスポート（お持ちの方）

毎月いろいろな専門職から健康に関するお話を聞いたり、気軽に質問もできます。高槻市オリジナルの元気体操を行なって体も動きます。

2025年（令和7年）	
10月20日(月)	ノルディックウォーキング体験（別途申込・要参加費） 協賛：トップコーポレーション ゆとり
11月17日(月)	富田地域包括支援センター 「あなたのそばにある相談窓口① 地域包括支援センター」
12月15日(月)	栄養士「間食でおいしく楽しく健康長寿 ～カカオ・乳酸菌のチカラ～」 協賛：株式会社 明治
2026年（令和8年）	
1月19日(月)	栄養士「自分でできる花粉症対策 ～軽減するための秘訣とは～」 協賛：近畿中央ヤクルト販売株式会社
2月16日(月)	薬剤師「あなたのそばにある相談窓口② 薬局」
3月16日(月)	精神保健福祉士「忘れっぽくなるのが、認知症？」

詳しくはお電話にて
お問い合わせください。TEL.072-694-2434

庸愛会＆健康会 広報誌

ひとりひとりの思いに寄りそい、チームのちからで叶えます。

かなえ

Vol.
19 秋号

庸愛会 編集版



富田地域包括支援センター 健康アップ教室

消費のサポーター



富田地域包括支援センターでは 高槻市の委託事業として、地域の方に向けた 「健康アップ教室」を毎月開催しています。

当法人の専門職や地域の企業の方を講師に迎え、いきいきと豊かな生活を送るためのヒントになるような講話や体操を、毎月テーマを変えながら続けています。この先も元気に過ごすために知識を深めたい方や、健康のことは気になってきたけれど今さら新しいことを始めるのはなあ…と思っている方も、教室に参加することで一歩が踏み出せるかもしれません。一緒にあなたの健康アップを始めてみませんか。初めての方、一人での参加の方もたくさんいらっしゃいます。どうぞお気軽にご参加ください。今後の予定やお申込み方法は、本紙4面をご覧ください。

富田地域包括支援センター 保健師 緒方 由美子



医療法人 庸愛会



社会福祉法人 健康会

Doctor's Interview

森
智川
博

今回は、富田町病院の内科に勤務されている
森川医師にインタビューしてきました！

先生が歩んでこられた道は本当に「ドラマ」で、
「恩と縁」ということを強く感じました。
先生のお人柄や姿勢など、お伝えできればと思います。



■ ご出身はどちらですか？

大阪市東淀川区上新庄で生まれました。2歳から26歳まで摂津市で過ごし、その後鹿児島大学に合格し、実家を離れました。

■ 医師になったきっかけを教えてください。

子どもの頃はしょっちゅう熱を出して寝込んでました。寝ているとヒマなので、家にあった「家庭の医学」を手にとったら面白かったことが1つ。手塚治虫の「ブラック・ジャック」を読んだこと。そして、子ども時代にお世話になった千里丘協立診療所の下野英世先生の姿にあこがれたこと。この3つです。

高校時代は力及ばず、大阪大学基礎工学部に進学しました。大阪大学医学部に、他学部の卒業生を集めて医学の研究者をつくる「医科学修士課程」があって、奇跡的に大学院はそこに進学することができました。そのことを下野先生に報告したら、「基礎医学に進むなら、臨床現場を見ておくべきだよ」と言ってくださり、事務当直のバイトをさせて頂きました。臨床現場を見て、自分の年齢を考えると、自分が「医師」になるラストチャンスだと思い、博士課程の1年の時、講座の教授に「1年間だけ受験勉強させてほしい」とお願い

いして、仮面大学院生となり、そして鹿児島大学の医学部が私を拾ってくれました。

■ 学生時代のエピソードを教えてください。

阪大は家から通っていました。鹿児島には知人も親戚もおらず、頼る人のいない一人暮らしでした。春にはシロアリが降ってくるようなアパートでした。医学部での思い出はたくさんあります。友人たちと自主的に勉強会を持ち、医学教育担当の先生に顧問をしていただきました。大学祭では、前年にトラブルがあってマイナスからのスタートでしたが、親友が運営のトップ、私がNo.2となって大学祭を前年以上に成功させました。トップの事務局長は人望厚い人で、僕は参謀みたいなかたちで。僕は人を引っばっていくタイプではないので。

■ 医学部を卒業して、研修医時代の様子を教えてください。

大学院を中退して医学部に進学したので、大学医局に残るつもりはなく、八尾徳洲会総合病院で研修を受けました。今は院長をされている原田博雅先生が、僕の「師匠」です。下野先生は「恩師」だと

思っています。原田先生のもとで6年間研修を受けて、内科医の末席を汚すことができるレベルになりました。

■ 最後は協立診療所に戻るおつもりでしたか？

子どもの頃からのあこがれですから。我が家は貧乏で、父親は僕が16の時に亡くなりました。その後母が再婚。継父は中卒で、家族5人。僕は男3人兄弟の一番上で、僕がさっさと働いたら家計は楽になるんですけど、継父も貧乏ゆえに進学できないつらさを味わっていて「お前の性格ならサラリーマンになっても、出世は無理だろう。お前は勉強は好きやろうから、気い済むまで勉強したらええ」って、家計よりも私の未来を案じてくれました。本当に貧乏でしたが、両親から「早く働いてくれ」とは一度も言われませんでした。診療所のバイト中に、下野先生に「今、医者を目指してます」ってお伝えしたら、先生は「医師の仕事は患者さんを診察することだけではなく、次の時代の医者をつくるのも大事な仕事だ。君が医者になるのなら私に応援させてほしい。見返りは求めない。もし君が医者になって僕と同じ臨床の場に立てたら僕はとてもうれしい」とおっしゃって、6年間、経済的援助をしてくださいました。僕はその言葉を胸に、学生時代6年間+研修医時代6年間を、ひた走りました。

■ すごいことですね。

はい、本当にありがたいことです。先生の厚意に恥じないよう必死に勉強して、首席で卒業できました。中学の同級生だった妻とも学生結婚をしました。

■ 学生結婚されたんですね。

付き合い始めはお互い19歳で、いろいろありましたが、彼女が鹿児島に来てくれました。そういう意味で、本当にいろんな人に支えられながら、僕は医者になれたなあと思っています。

■ 総合診療医を目指されたのですか？

大学病院では、各分野のスペシャリストを養成しています。私はむしろ、広く患者さんを診察できるジェネラリストになろうと思っていました。ほかの医師が持っている「専門性」を持たない、というのは少し引け目に感じているのですが、何でも屋さんとして、協立診療所では内科だけでなく小児科や、重症でないケガなども診てました。

■ 千里丘協立診療所のお話を教えてください。

有床診療所です。実は一時期、富田町病院の前身の富田町診療所と同じ医療法人庸愛会でした。下野先生は小西先生の1学年上で、どちらも同じ京都大学医学部出身。学生時代はお二人とも活動家だったと思います。なので、協立診療所と富田町病院は双子のようなものです。

■ 協立診療所には何年勤務されていたのですか？

骨をうすめるつもりで協立診療所に勤務しましたが、諸処の事情で



10年で退職しました。防衛医大や自治医大、地域枠などは「お礼奉公」として援助を受けた年数の1.5倍の期間働くというのが一般的なので、10年間命を削って頑張ったんだから、下野先生もお許し下さるだろうと考えました。転職の際、紹介された病院の中に富田町病院があって、面接した翌日にぜひ来て欲しいと言っていたしていると連絡があり、そのありがたい気持ちと、そして協立診療所と富田町病院の関係、下野先生と小西先生のことを思うにつけ、これはご縁があるんだろうと思って、こちらに来ることにしました。

■ 当院に来られての印象はいかがですか？

今の時代、各診療科の専門クリニックが多数ある中で、「町医者」というような「総合診療」をしていくことの難しさは、こちらでも協立でも感じています。そういう点で、自分の仕事は変わっていないと思っています。外来に受診された患者さんは、誠意をもってしっかり診る、必要があれば躊躇せず紹介する。入院されている患者さんもしっかり診て、急性期で治療が必要な場合は積極的に治療を行ない、静かに看取る時は静かに看取る。在宅医療については、医師になって3年目から在宅医療にかかわっています。今後も訪問診療は増えていくと思いますし、そのために、できることを誠実にしていこうと思っています。

■ プライベートについて、ご家族のことを教えてください。

妻と、20歳になった長男と、18歳になる高校3年生の次男です。協立診療所時代は、週休半日、週に2日当直、当直後通常勤務、という働き方で、家のことがほとんどできず、妻には、やむなく専業主婦になってもらいました。今でも彼女に申し訳ないと思っています。

■ 休日の過ごし方は？

休みの日は、買い物に行くとか。日曜日のお昼ご飯は私が作るものがほとんどで、スバゲティを作ったりします。

■ 先生の趣味は何ですか？

ギター、音楽ですね。中学生からビートルズが好きで、高校の時にクラシックギター部に入りました。医学生時代から、こちらに来るまではギターを弾く暇もないほど忙しく、富田町病院に来て、ようやく時間を作れるようになりました。運動はキライですね(笑)。子どもの頃病弱で、しょっちゅう寝込んでいた影響か運動がとても苦手で、体育がトラウマになってます。

■ 今後目指していく方向を教えてください。

健康に関することなど色々なことを気安く相談してもらえる医師、その信頼に応えられる医師、それが目標だと思っています。